

かほくワークシート

青森県の高中生

LINEトラブル16%

弘前大
調査

いじめの可能性指摘

無料通信アプリLINE（ライン）を利用している青森県内の高校生のうち16%が、LINE上のグループから外されるなど何らかのトラブルを経験していることが25日、弘前大ネット&いじめ問題研究会の調査で分かった。研究会は「一定数の生徒がLINE上でいじめに苦しんでいる可能性がある」と指摘した。

調査は、県内の県立高校に通う1〜2年生計1982人を対象に、2014年9月と12月に実施。インターネットやLINEの利用状況などを尋ねるアンケート形式で、有効回答率は99・8%だった。

報告書によると、インタ

ーネットを使用している生徒の93・2%に当たる1805人がLINEを利用。このうち99・8%がグループ内でメッセージを交換するトーク機能を使っていた。LINE利用者の10・1%が「トークの書き込みで嫌な思いをした」と回答し、5・9%が「自分抜きにグループをつくられたり、外されたりした」などいじめにつながるトラブルに遭ったと答えた。

研究会会長の大谷良光・元教授は「文部科学省が示した0・15%といういじめ認知率からは相当隔たりがある。少なくない生徒がLINE上のいじめに苦しんでいると推測できる」と話

した。LINEの運営会社に報告書を提出する方針。昨年7月に八戸北高（八戸市）の2年の女子生徒がいじめを受けて自殺した可能性がある問題に関しては「青森県教委付属の審議会では調査機能がなかった。県教委が審議会の委員選任に関するガイドラインなどを設けないと同じ問題が起ころ」と指摘した。

(2015年3月26日河北新報朝刊)

今回は、「ディベート」を行います。論題は「10代の若者にLINEは必要である」とします。最初に3人1組のグループを作ります。1人目は肯定側の討論者で「LINEの長所」を、2人目は否定側の討論者で「LINEの短所」を考え、3人目は2人の議論を聞いて、どちらがより説得力があったかを判定する審判（ジャッジ）になります。

〈進め方〉

- ①新聞記事を読み、肯定側と否定側が2分間で自分の考えをまとめる。
- ②2分後、肯定側が30秒以内で自分の考えをスピーチする。そのあと、否定側が同じく30秒以内でスピーチをする。
- ③お互いの主張を聞きあったところで、1分間の作戦タイム。これは、相手の考えに反論するための意見をまとめる時間です。
- ④今度は、否定側から先に、肯定側に30秒以内で反論し、そのあと、肯定側が否定側に30秒以内で反論します。
- ⑤最後に審判はどちらがより説得力があったかを説明し、勝者を決めます。
- ⑥役割を変えて3回実施します。そうすると全ての役割をできます。さあ、はじめましょう。

年 組 名前

(中学校・高校/国語、特別活動、道徳、情報)